資料一4[様式集] 令和2年度 第1回 北陸地方整備局 事業評価監視委員会

〔伏木富山港伏木地区国際物流ターミナル整備事業〕 費用対便益算出資料 [様式集]

1)	概要表	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Ρ	1
2)	事業全体	本	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	2
3)	残事業	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	3
便益	【維持》	夋渫	か	ら	の	脱	却	に	ょ	る	効	果			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	4
便益	【陸上軸	俞送	⊐	ス	۲	削	減	便	益]	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	6
	【海上軸									_																									7
	【緊急物																																		8
便益	【震災征	後の	—	般	貨	物	輸	送	\Box	ス	۲	増	大	回	避			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	9
	【施設衫			-		_																													
排出	ガスの肖	削減		定	量	的	に	把	握]	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	Р	1 1
費田	内訳 【3	丰業	書	1																														Р	1 2

令和2年9月

北陸地方整備局

1) 概要表

	項目	単価	期間		事業全体 (割引前)	事業全体 (割引後)		残事業 (割引後)
便益	維持浚渫からの脱却による効果				972.7億円	2,159.4億円		
(B)	維持浚渫費用削減便益	(最大)8.9億円/年	1998年~2055年	58年	505.5億円	467.5億円		
	土砂処分費用削減便益	71.6億円/年	1990年~1997年	8年	344.1億円	1,562.3億円	X 1	
	既存施設改良費用削減便益	(最大)16.4億円/年	2011年~2025年	15年	123.2億円	129.5億円		
	輸送コストの削減による効果				399.4億円	226.8億円		21.9億円
	陸上輸送コスト削減便益	(最大)9.6億円/年	2006年~2055年	50年	353.2億円	204.9億円		
	海上輸送コスト削減便益	1.5億円/年	2026年~2055年	30年	46.2億円	21.9億円		21.9億円
	震災発生時の効果				22.8億円	12.6億円		
	緊急物資輸送コスト増大回避	0.8億円/回	2021年~2055年	35年	0.3億円	0.2億円	※ 2	
	震災後の一般貨物輸送コスト増大回避	20.9億円/回	2021年~2055年	35年	7.0億円	3.8億円		
	施設被害の回避	43.4億円/回	2021年~2055年	35年	15.5億円	8.6億円		
	残存価値				46.5億円	12.7億円		
	슴計				1,441.4億円	2,411.6億円		21.9億円
費用	初期投資·更新投資				590.6億円	1,709.2億円		17.4億円
(C)	管理運営費				10.5億円	8.6億円		0.2億円
	合計				601.0億円	1,717.8億円		17.6億円
	費用便益分析(B/C)			!		1.4		1.2

^{※1} 土砂処分場(埋立地)としての残存価値を考慮

^{※2} 地震発生確率を考慮

2) 事業全体

- 伏木富山港(伏木地区) 国際物流ターミナル整備事業(全体事業) 費用便益分析シード割引前)

費用便益分析シート(割引後)

								割る	目前						(億円)				EIRR= B/C=	126.2% 1.4		NPV=	693.7 (門	* all i	引後						(億円)
施設 年度 供用 期間	初期 投 更 投 新 資	管理		費用 坩 C) ¾	抗路・泊 他の維持 き深費用 川減便益	費用削減	以及貨用	陸上輸送	海上輸送	彩 志 初 頁 。 命 洋 コフト		施設被害 の 回避便益	残存 価値	総便益 (B)	純便益 (B-C)		施設 供用 期間	社会的 割引率	初期 投資・ 更新 投資	管理 運営費	(C)	航路・泊 地の維持 浚渫費用 削減便益	費用削減	•	陸上輸送	海上輸送コスト削消	緊急物資 輸送コス 増大回避 便益	一般與7	匆 施設被害		総便益 (B)	純便益 (B-C)
1988 1999 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 1 2007 2002 2008 3 2004 2010 5 2006 1 2017 2013 2019 1 2015 1 2016 1 2017 2013 2019 1 2016 1 2011 2016 1 2011 2016 1 2011 201	2.5 0.5 0.4 0.6	D 5 1 3 3 4 4 4 4 3 1 1 3 3 3 5 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	. 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1.9 3.40 20.6 16.1 3.53 3.53 3.53 3.53 3.60 3.18.1 13.8 3.40 3.46 3.46 3.46 3.46 18.6 18.6 18.6 2.7 7.4 18.1 1	7.7 7.0 5.3 6.7 8.9 8.9 8.9 8.9 8.9 8.9 8.9 8.9 8.9 8.9	71.6 71.6 71.6 71.6 71.6 71.6 71.6 71.6	3.6 3.6 3.6 8.2 4.7 11.1 11.8 11.8 11.8 11.8 11.8 11.8 11	0.8 1.3 1.3 1.6 1.2 1.2 1.2 1.2 1.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2.3 2	15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00	0.1 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2 0.2	03 06 05 05 05 05 05 05 05 05 05 05 05 05 05	46.5 46.5	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 71.6 71.6 71.6 71.6 71.6 71.6 71.6 71.6	-34.0 50.9 50.5 36.3 20.2 31.2 36.7 53.4 -45.7 -27.0 -45.7 -29.4 -9.3 -10.8 -5.3 23.3 0.1 -8.4 -1.3 5.2 11.7 10.9 10.8 -1.3 5.3 21.6 5.3 22.1 11.7 10.9	1988 1999 1991 1992 1993 1991 1992 1993 1991 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2004 2005 2006 2007 2008 2008	用·護角	1.60 1.54 1.48 1.48 1.48 1.48 1.48 1.48 1.48 1.4	9 2 2 151.3 850 62.0 129.2 181.1 135.7 1121.7 1135.7 1121.7 135.7 1121.7 135.7 1121.7 136.6 13.9 13.9 13.9 13.9 13.9 13.9 13.9 13.9	0.44 0.41 0.41 0.38 0.38 0.38 0.39 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.20 0.2	9.2. 151.3 85.0 62.0 129.2 181.1 131.6 131.3		232.1 223.1 214.6 206.3 198.4 190.7 183.4 176.4	5.1 4.9 4.9 10.4 10.4 10.5 11.8 11.8 11.8 11.8 11.8 12.9 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	22.28.88.85.82.27.97.76.65.26.20.20.20.20.20.20.20.20.20.20.20.20.20.	1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1	2		2 0.5.2 0.5.2 0.5.1 0.3.2 0.5.	12.	0.0 0.0 0.232.1 223.1 224.6 206.3 198.4 190.7 183.4 176.4 176.4 176.7 17.8 17.4 17.7 17.8 17.8 17.8 17.8 17.8 17.8 17.8	-151.3 147.0 161.1 854.4 252.2 62.7 78.6 127.2 135.3 -56.7 -80.2 -126.9 -80.1 -54.0 -27.3 -3.0 -17.5 -5.1 -5.1 -6.1 14.4 14.2 16.4 14.2 16.4 16.4 16.1 18.1 18.1 18.1 18.2 18.1 18.1 18.2 18.1 18.1

3) 残事業

伏木富山港(伏木地区) 国際物流ターミナル整備事業(残事業) 費用便益分析シート(割引前)

費用便益分析シート(割引後)

															EIRR= B/C=		i.7% 1.2		4.3	3 億円				
							割引	析		((億円)									割引	24			(億円)
年度	施設 供用 期間	初期 投資・ 更新 投資	管理 運営費	総費用(C)	陸上輸送 コスト 削減便益	- / I D1///	緊急物資輸	送 震災後の一般 遊 貨物輸送コスト 施設被害の 増大回避便益	残存価値	総便益 (B)	純便益 (B-C)	年度	施設 供用 期間	社会的割引率	初期 投資・ 更新 投資	管理 運営費		陸上輸送 つ コスト 削減便益	- / I DJ#%	緊急物資輸送	送 震災後の一般 送 震災後の一般 追 貨物輸送コスト 施設被害の 増大回避便益	残存価値	総便益 (B)	純便益 (B-C)
1988 1989 1990 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 2000 2001 2002 2003 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2031 2019 2020 2021 2021 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2029 2020 2021 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2029 2021 2021 2022 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2031 2031 2031 2031 2031 2032 2034 2035 2036 2037 2038 2039 2031 2031 2034 2035 2036 2037 2038 2039 2031 2031 2032 2034 2040 2050	1 2 2 3 3 4 5 5 6 7 7 8 8 9 9 100 111 12 13 13 14 15 16 6 17 7 18 20 21 22 23 24 25 26 27 27 28 29 29 3 3 3 1 3 2 2 3 3 3 3 4 4 2 4 5 4 6 6 4 7 4 8 4 4 4 5 6 6 4 7 7 8 8 5 5 5	2.5 2.5 1.6 6.7 6.9	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.0	2 2 0022		1.5. 1.5. 1.5. 1.5. 1.5. 1.5. 1.5. 1.5.				0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.00 0.0	1988 1999 1990 1991 1991 1992 1993 1994 1995 1996 1997 1998 1999 2000 2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2019 2019 2010 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031 2044 2045 2040 2041 2042 2042 2042 2042 2043 2044 2044 2045 2046 2047 2048 2049 2040 2041 2042 2042 2042 2048 2049 2040 2041 2044 2044 2044 2044 2046 2047 2048 2049 2055 2066 2055 2056	1 2 3 3 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 11 1 12 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1.67 1.809 1.54 1.42 1.37 1.32 1.27 1.22 1.17 1.12 1.08 0.95 0.85 0.82 0.79 0.73 0.70 0.89 0.85 0.85 0.85 0.85 0.85 0.85 0.85 0.85	2.4 2.3 1.4 5.8.5 5.7	3 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	01	2.4 2.3 1.4 2.3 1.5 5.7 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01	1.2 1.2 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1	2 1 1 1 0 0 0 0 9 9 9 9 9 9 8 8 8 8 7 7 7 7 6 6 6 6 6 6 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5			0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0

便益

【維持浚渫からの脱却による効果】

●対象プロジェクトの実施により、毎年多大な費用を要していた維持浚渫からの脱却が可能となる。 また、老朽化が進んでいる既存施設の改良が不要となることで、岸壁供用期間内で維持浚渫費用505.5億円、 土砂処分費用344.1億円、既存施設改良費用123.2億円の削減ができる。

<維持浚渫費用削減効果(平成10年度以降)>

		S63	H1	H2	Н3	H4	H5	Н6	H7	Н8	Н9	R2	合計	平均
維持浚渫量	(m3/年)	281,210	187,240	145,340	214,300	155,600	157,400	181,500	146,400	146,500	177,800		1,793,290	179,329
事業費	(百万円/年)	1,100	700	600	600	650	650	690	700	700	709		7,099	710
建設デ	フレーター	83.3	87.3	90.5	93.1	94.3	94.1	95.0	95.3	95.0	95.6	115.1		
事業費(実質)	(百万円/年)	1,520	923	763	742	793	795	836	845	848	854		8,919	892

注1:事業費(実質)とは、令和2年価格とした値、デフレーターは国土交通省資料(2011年度基準価格)より、令和2年度のデフレーターは令和1年度暫定値を代用

注2:H10~H14年度についても維持浚渫は行っていたが、H10に万葉埠頭1・2号の供用が開始し、万葉埠頭の利用を前提としていたことから、

浚渫土量を削減したため、上記の実績には含まれていない

注3:H10~H14年度の便益対象となる維持浚渫量は、上記平均維持浚渫量から実績浚渫量を差し引いた浚渫量で計上

注4:維持浚渫量は、扱い数量であり、施工はグラブ浚渫、土運船運搬、新湊西埋立地及び東埋立地への土捨て費用

便益

【維持浚渫からの脱却による効果】

<土砂処分費用削減効果(平成2年度から平成9年度、残存価値を供用最終年に計上) >

廃棄物海面処分場造成費用

- =廃棄物海面処分場造成費用実績(新湊地区)/土砂受入総量実績(新湊地区)×土砂受入総量
- =27,457(百万円)/645(万 m3)×土砂受入総量
- =42.57(百万円/万m3)×浚渫十砂×1.3
- =42.57(百万円/万 m3)×1,034.3×1.3
- =57,241 百万円

※浚渫土量は、埋め立て時には約1.3倍にふくらむ。(港湾請負工事積算基準)

上記の廃棄物海面処分場造成費用の削減が建設期間約8年間で発生することから、年あたりの効果は、7,155百万円と算定される

=57,241 百万円/8(年) =7,155 百万円/年(H2~H9 に便益計上)

残存価値として、維持浚渫を継続した場合に発生する土地 134ha が造成。

処分場面積(事業全体)=浚渫土量÷埋め立て高さ

=1,034.3(万 m3)×1.3÷10m = 134ha = 22,835 百万円 (最終年にマイナスとして計上)

	用地面積	地価(円/m²)	残存価値 (百万円)	備考
土砂処分場	134 ha	17,041		土砂処分場が完了する供用終了年 (R37)に計上

廃棄物海面処分場造成費用 - 残存価値 = 土砂処分場費用削減効果 とする。

57, 241 百万円 - 22, 835 百万円 = 34, 405 百万円 = 344.1 億円

<既存施設改良費用削減効果(平成23年度から令和7年度) >

	水深	延長	完成年	耐用年数	供用終了年	改良年	改良単価	改良費用	改良費用
	(m)	(m)	(年)	(年)	(年)	以及平	(千円/m)	(百万円)	(百万円/年)
右岸3号	-10	185	1964	50	2013	2014 ~ 2018	12,567	2,325	465.0
右岸4号	-10	185	1967	50	2016	2017 ~ 2021	12,567	2,325	465.0
右岸5号	-7.5	130	1968	50	2017	2018 ~ 2022	9,425	1,225	245.0
左岸2号	-9.5	150	1961	50	2010	2011 ~ 2015	11,938	1,791	358.2
左岸3号	-10	185	1970	50	2019	2020 ~ 2024	12,567	2,325	465.0
左岸4号	-10	185	1971	50	2020	2021 ~ 2025	12,567	2,325	465.0

便益

【陸上輸送コスト削減便益(平成18年度以降)】

●対象プロジェクトの実施により、伏木地区が利用可能となることで陸上輸送距離の短縮し、9.6億円/年 (2.3億円+7.3億円)の陸上輸送コストが削減できる。

■原塩 WITH時(伏木富山港 伏木地区)

					貨物	量·車輌台	数	陸上	輸送距離·輸	送時間	陸上輸送	送費用
					1	①'	2	3	4	(5)	6	7
利用 港湾	地区	輸送先		品目	貨物量	1台当り 積載量	ト ラ ック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
					(千トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
							1/1			3/4		2×6
伏木富山港	伏木	高岡市内	H30以降	原 塩	65	20	3,250	13.8	33.3	0.4	22,490	73,093

■木質ペレット WITH時(伏木富山港 伏木地区)

					貨物	量·車輌台	数	陸上	輸送距離·輸	送時間	陸上輸送	送費用
					1	1)'	2	3	4	(5)	6	Ø
利用港湾	地区	輸送先		品目	貨物量	1台当り 積載量	トラック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
					(千トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
							1)/1)'			3/4		2×6
伏木	伏木	高岡市内	R4以降	木質ぺレット	210	20	10,500	0.6	33.3	0.0	22,490	236,145
富山港	以本		K4 WJE	計	210		10,500			0.0		236,145

■原塩 WITHOUT時(直江津港 中央埠頭)

					貨物	量·車輌台	数	陸上	輸送距離·輸	送時間	陸上輸送	送費用
					1	①'	2	3	4	(5)	6	7
利用港湾	地区	輸送先		品目	貨物量	1台当り 積載量	ト ラ ック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
					(千トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
							1)/1)′			3/4		2×6
直江津港	中央埠頭	高岡市内	H30以降	原 塩	65	20	3,250	280.8	33.3	8.4	92,022	299,072

■木質ペレット WITHOUT時(直江津港 中央埠頭)

					貨物	量・車輌台	数	陸上	輸送距離・輸	送時間	陸上輸送	送費用
					1	1)'	2	3	4	(5)	6	Ī
利用港湾	地区	輸送先		品目	貨物量	1台当り 積載量	トラック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
					(千トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
							1)/1)'			3/4		2×6
直江津		高岡市内	R4以降	木質ぺレット	210	20	10,500	284.0	33.3	8.5	92,022	966,231
旦江净			K4以阵	計	210		10,500			8.5		966,231

	陸上	輸送費用削	減便益(年間	1)	
便益項目			陸上輸送便	益	
WITHOUT-WITH (削減便益)	H30以降	225,979	(千円/年)	2.26	(億円/年)

	陸上	輸送費用削	減便益(年間	1)	
便益項目			陸上輸送便	益	
WITHOUT-WITH (削減便益)	R4以降	730,086	(千円/年)	7.30	(億円/年)

便益

【海上輸送コスト削減便益(令和8年度以降)】

●対象プロジェクトの実施により、より大型の船舶での輸送が可能となり運行回数が減少することで、 1.5億円/年の海上輸送コストが削減できる。

■WITH時(伏木富山港:水深14m)

				貨物量·利用船	型·入港隻数			泊	上輸送免	Ŀ•距離·輸達	送時間			海上軸	輸送費用
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11)	12	13
搬入先	品目	区分	貨物量	対象船型	1隻当り	入港船舶	利用港	相手港	海上	往復海上	平均速度	海上輸送	海上輸送	海上輸送	海上輸送
					積載量	隻数			距離	距離		時間	日数	費用算定	費用
			(千トン)	(DW級)	(トン/隻)	(隻)			(マイル)	(マイル)	(マイル/h)	(h)	(日)	原単位	(千円/年)
						1/3				⑦×2		8/9	10/24h	(千円/日・隻)	$0 = 4 \times 1 \times 2$
高岡市	木質~~レット	輸入	210	50,000	32,500	7	伏木 富山港	アメリカ (クースベイ)	4,337	8,674	16.0	542.1	22.6	3,452	546,106
		計	210	·		7									546,106

■WITHOUT時(伏木富山港:水深12m暫定供用)

				貨物量·利用船	型・入港隻数	汝		淮	再上輸送 第	t・距離・輸送	送時間			海上軸	谕送費用
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11)	12)	(13)
搬入先	品目	区分	貨物量	対象船型	1隻当り	入港船舶	利用港	相手港	海上	往復海上	平均速度	海上輸送	海上輸送	海上輸送	海上輸送
					積載量	隻数			距離	距離		時間	日数	費用算定	費用
			(千トン)	(DW級)	(トン/隻)	(隻)			(マイル)	(マイル)	(マイル/h)	(h)	(日)	原単位	(千円/年)
						1/3				⑦×2		8/9	10/24h	(千円/日・隻)	$0 = 4 \times 1 \times 2$
高岡市	木質 ペプレット	輸入	210	30,000	19,500	11	伏木 富山港	アメリカ (クースベイ)	4,337	8,674	16.0	542.1	22.6	2,815	699,809
		計	210			11									699,809

[※]対象船舶50,000DWT(WITH時)、30,000DWT(WITHOUT時) 1隻当り積載量: H30年新湊地区木材チップ船満載時の実績積載量

輸送コスト削減便益	海上輸送コスト
制区コヘト削減関金	(千円/年)
WITH	546,106
WITHOUT	699,809
便益(WITHOUT-WITH)	153,703

便益

【緊急物資輸送コスト増大回避(令和3年度以降)】

●対象プロジェクトの実施により、緊急物資や一般貨物(緊急物資を除く)を海上輸送で直接被災地域へ と搬入・搬出することが可能となり、0.8億円/回(地震発生確率考慮前)の緊急物資輸送コストが削減 される。

		備考
① 背後圏人口(人)	204,228	平成30年10月現在
② 緊急物資量《被災直後から2日間》水・毛布(MT)	42.9	
③ 3tヘリコプター1台当りの輸送回数(回)	15	②/3t: ヘリコプターを想定
④ 3tヘリコプター1台当りの輸送コスト(千円/回)	2,658.5	(解説書 p 2-13-28) R1価格に補正
⑤ 輸送コスト《被災直後から2日間》(千円)	39,877	③×④
⑥ 緊急物資量《被災3日目から1ヶ月後》雑工業品(MT)	2,980.1	背後圏人口より算出
	3 2/12 8	フレートトン(FT)とメトリックトン(MT)の換算係数:
⑥' 緊急物資量《被災3日目から1ヶ月後》雑工業品(FT)	3,242.0	MT/FT=0.919(解説書 p 2-2-16:フェリ-貨物以外)
⑦ 緊急物資量《被災3日目から1ヶ月後》農水産品(MT)		背後圏人口より算出
	746.7	フレートトン(FT)とメトリックトン(MT)の換算係数:
		MT/FT=0.919(解説書 p 2-2-16:フェリー貨物以外)
⑧ 使用トラックの輸送台数(台)		(⑥'+⑦')/3:3FT/台(解説書p2-13-28)
9 トラックの輸送コスト(円/台)	20,368	代替港:七尾港(片道43.4km:往復86.8km)
		伏木富山港伏木地区万葉埠頭からの輸送距離
⑪ 輸送コスト《被災3日目から1ヶ月後》(千円)	27,089	®×9
① 輸送時間(時間): ヘリコプター	1.0	
① 輸送時間(時間):トラック	6.4	代替港:七尾港
		20km圏の道路:30.1km(走行速度5km/h)
		それ以外の道路:13.3km(走行速度34.3km/h)
③ 雑工業品(衣料等)の時間価値(円/フレートトン・時)	617	雑工業品(解説書 p 2-13-28) R1年価格に補正
(4) 農水産品(食品等)の時間価値(円/フレートトン・時)	123	農水産品(解説書 p 2-13-28) R1年価格に補正
⑤ 時間費用《被災直後から2日間》(千円)	26	②×①×③
⑥ 時間費用《被災3日目から1ヶ月後》(千円)	13,393	6'×(!)×(!)+(!)'×(!)×(!)
緊急物資輸送コスト削減便益(千円)	80,385	5+10+15+16
緊急物資輸送コスト削減便益(億円)	0.8	

便益

【震災後の一般貨物輸送コスト増大回避(令和3年度以降)】

●対象プロジェクトの実施により、震災後において背後企業の一般貨物の取扱いが可能となり、20.9億円/回 (地震発生確率考慮前、11.1億円+9.8億円)の震災後の一般貨物輸送コストが削減される。

■既存貨物(木質ペレット以外) WITH時

						貨物	量·車輌台	数	陸上	輸送距離·輔	送時間	陸上輸	送費用
						1	1)	2	3	4	(5)	6	7
	品目	出入	発着地	利用港湾	地区	貨物量	1台当り 積載量	トラック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
						(干トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
								①/①			3/4		2×6
	石 炭	輸入	荷主			13	20	650	7.6	33.3	0.2	22,490	14,619
	金 属 鉱	輸入	高岡			7	20	350	13.8	33.3	0.4	22,490	7,872
	原 塩	輸入	荷主			65	20	3,250	14.2	33.3	0.4	22,490	73,093
	原 塩	移入	10 ±			31	20	1,550	14.2	33.3	0.4	22,490	34,860
	非金属鉱物	輸入	荷主			2	20	100	34.2	33.3	1.0	25,226	2,523
	9F 3E Nº NA 193	移入	高岡			6	20	300	13.8	33.3	0.4	22,490	6,747
3	鉄 銅	輸入	高岡			10	20	500	13.8	33.3	0.4	22,490	11,245
号	鋼材	輸入	高岡			1	20	50	13.8	33.3	0.4	22,490	1,125
7	非 鉄 金 属	輸入	高岡			4	20	200	13.8	33.3	0.4	22,490	4,498
	非金属鉱物	輸出	高岡	伏木富山港	伏木地区	1	20	50	13.8	33.3	0.4	22,490	1,125
	その他石油製品	輸入	高岡			5	20	250	13.8	33.3	0.4	22,490	5,623
		移入	高岡			4	20	200	13.8	33.3	0.4	22,490	4,498
	紙・パルブ	移出	荷主			8	20	400	7.6	33.3	0.2	22,490	8,996
	非 鉄 金 属	移出	高岡			5	20	250	7.6	33.3	0.2	22,490	5,623
	金属くず	輸出	高岡			58	20	2,900	13.8	33.3	0.4	22,490	65,221
2		輸 出	高岡			300	20	15,000	13.8	33.3	0.4	22,490	337,350
号	化 学 薬 品	移入	高岡			3	20	150	13.8	33.3	0.4	22,490	3,374
3	砂利・砂	移入	高岡			17	20	850	13.8	33.3	0.4	22,490	19,117
号	再利用資材	移入	高岡			10	20	500	13.8	33.3	0.4	22,490	11,245
1	81					550		27,500			15.6		618,754

※貨物により荷主が複数の場合には、発着地を高岡市役所に設定

■既存貨物(木質ペレット以外) WITHOUT時

											貨物	量·車輌台	数	陸上	輸送距離·輸	送時間	陸上輸	送費用
											1	①'	2	3	4	5	6	7
			品目	1		出	λ	発着地	利用港湾	地区	貨物量	1台当り 積載量	トラック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
											(干トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
													①/①			3/4		2×6
	石				炭	輸	λ	荷主	七尾	大田	13	20	650	91.2	33.3	2.7	43,240	28,106
	金		属		鉱	輸	λ	高岡	七尾	大田	7	20	350	90.0	33.3	2.7	43,240	15,134
	原				塩	輸	λ	荷主	直江津	中央埠頭	65	20	3,250	281.6	33.3	8.5	87,667	284,918
	Dyc				48	移	λ	10J ±	七尾	大田	31	20	1,550	87.8	33.3	2.6	40,153	62,237
	非	金	犀	202	物	輸	λ	荷主	七尾	大田	2	20	100	113.2	33.3	3.4	48,652	4,865
	9F	320	Jan.	RIA	193	移	λ	高岡	七尾	大田	6	20	300	90.0	33.3	2.7	43,240	12,972
_	鉄				銅	輸	λ	高岡	七尾	大田	10	20	500	90.0	33.3	2.7	43,240	21,620
3 号	鋼				材	輸	λ	高岡	七尾	大田	1	20	50	90.0	33.3	2.7	43,240	2,162
.,	非	鉄		金	属	輸	λ	高岡	七尾	大田	4	20	200	90.0	33.3	2.7	43,240	8,648
	非	金	属	鉱	物	輸	出	高岡	七尾	大田	1	20	50	90.0	33.3	2.7	43,240	2,162
	そり	の他	石	油製	品	輸	λ	高岡	七尾	大田	5	20	250	90.0	33.3	2.7	43,240	10,810
						移	λ	高岡	七尾	大田	4	20	200	90.0	33.3	2.7	43,240	8,648
	紙		/ŝ	ル	ブ	移	出	荷主	七尾	大田	8	20	400	91.2	33.3	2.7	43,240	17,296
	非	鉄		金	属	移	出	高岡	七尾	大田	5	20	250	90.0	33.3	2.7	43,240	10,810
	金	Į¥.		<	ず	輸	出	高岡	七尾	大田	58	20	2,900	90.0	33.3	2.7	43,240	125,396
2	完	成	自	動	車	輸	出	高岡	七尾	大田	300	20	15,000	90.0	33.3	2.7	43,240	648,600
号	化	*		薬	밂	移	入	高岡	七尾	大田	3	20	150	90.0	33.3	2.7	43,240	6,486
3	砂	利	J		砂	移	入	高岡	七尾	大田	17	20	850	90.0	33.3	2.7	43,240	36,754
号	再	利	用	資	材	移	入	高岡	七尾	大田	10	20	500	90.0	33.3	2.7	43,240	21,620
				ŝ	ł						550		27,500			114		1,329,244

胎上輸送費用削減便益(年間) 710,490 (千円/年) 7.10 (億円/年)

■木質ペレット WITH時

								貨物	量·車輌台	'数	陸上	輸送距離·輸	送時間	陸上輸	送費用
								1	1)'	2	3	4	(5)	6	7
		品目		出入	発着地	利用 港湾	地区	貨物量	1台当り 積載量	トラック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
								(千トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
										1)/1)′			3/4		2×6
3 号	木 材	ペレッ	۲	輸入	高岡	伏木富山港	伏木地区	210	20	10,500	0.6	33.3	0.0	22,490	236,145
		計						210		10,500			0.0		236,145

■木質ペレット WITHOUT時

						貨物	量·車輌台	数	陸上	輸送距離·輔	送時間	陸上輸	送費用
						1	①'	(2)	3	4	(5)	6	7
	品目	出入	発着地	利用 港湾	地区	貨物量	1台当り 積載量	トラック 台数	一般道 距離	一般道 走行速度	陸上 輸送時間	1台当り 陸上輸送費	陸上 輸送費用
						(千トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(円)	(千円/年)
								1)/1)′			3/4		2×6
3 号	木材 ペレット	輸入	高岡	敦賀	鞠山南埠 頭	210	20	10,500	366.0	33.3	11.0	109,442	1,149,141
	計					210		10,500			11.0		1,149,141

	上輸送費用削減便益(年	間)	
WITHOUT-WITH	陸上	輸送便益	
(削減便益)	912.996 (千円/年)	9.13	(億円/年)

11.1 億円/回

既存貨物

3000年 レベル2地震動の再現期間

震災時における一般貨物輸送便益 7.10 億円/年 2.26 億円/年

通常時における輸送コスト削減便益

新規貨物

3000年 レベル2地震動の再現期間

9.13 億円/年 震災時における一般貨物輸送便益

通常時における輸送コスト削減便益 7.30 億円/年

9.8 億円/回

便益

【施設被害の回避(令和3年度以降)】

●対象プロジェクトの実施により、震災時においても当該ターミナルの被災を回避でき、43.4億円/回 (地震発生確率考慮前)の復旧に掛かるコストが削減される。

施設被害回避額

・岸壁(水深14m)の整備総費用 55.47 億円 ・岸壁(水深14m) 事業費 43.41 億円 ・岸壁(水深14m) 耐震改良 12.07 億円

• 復旧費用 整備総費用一耐震化費用

55.47 - 12.07 = 43.41 億円

排出ガスの削減(令和8年度以降)【定量的に把握】

●対象プロジェクトの実施により、陸上輸送距離、海上輸送回数の短縮が図られ、02排出量は約1,339t-C/年、NOX排出量は約50t/年の削減が可能となる。

陸上輸送距離短縮による排出ガスの削減(原塩・木質ペレット)

CO2排出量 Nox排出量 7 ① ② 1台当り トラック 積載量 台数 CO2排出原単位 NOx排出原単位 一般道 一般道 陸上 品目 地区 輸送先 貨物量 走行速度 輸送時間 排出量 排出量 (一般道) (高速道) (一般道) (高速道) (トン/台) (台/年) (km) (km/h) (h) (g/台/km) (t/年) (g-c/台/km) (g-c/台/km) (t-c/年) 3/4 2×3×6 2×3×8 20 3,250 伏木 高岡市内 13.8 33.3 145.20 132.68 2.78 2.16 0.12 R8 木質ペレット 20 10,500 33.3 145.20 132.68 2.78 2.16 0.02 0.14

海上輸送回数削減による排出ガスの削減(木質ペレット)

■WITH時(伏木富山港:水深14m)

						1615-16		
利用	船型・入港隻	数	輸送時間	CO2削	间減量	Nox削	減量	
1		2	3	4	5	6	7	
対象船型	相手港	入港船舶	海上輸送	CO2海上輸送	CO2	Nox海上輸送	NOX	
		隻数	時間	排出量原単位	排出量	排出量原単位	排出量	
(DW級)		(隻)	(h)	(トンーC/隻・時)	(トン-C)	(トン/隻・時)	(トン-C)	
					2×3×4		2×3×6	
50,000DWT	アメリカ	7	542.1	1.35	5,123	0.128	486	
					5,123		486	

■WITHOUT時(直江津港 中央埠頭)

						貨物	量·車輌台	数	陸上	輸送距離・輸	送時間		CO2排出量			Nox排出量	
						1	①'	2	3	4	5	(6)	5)	7	(8	3)	9
	利用	地区	輸送先		品目	貨物量	1台当り		一般道	一般道	陸上	CO2排出	原単位	CO2	NOx排出	原単位	NOx
	港湾	- 10년	物还元		nn 🖽	貝彻里	積載量	台数	距離	走行速度	輸送時間	(一般道)	(高速道)	排出量	(一般道)	(高速道)	排出量
						(千トン/年)	(トン/台)	(台/年)	(km)	(km/h)	(h)	(g-c/台/km)	(g-c/台/km)	(t-c/年)	(g/台/km)	(g/台/km)	(t/年)
								1)/1)′			3/4			2×3×6			2×3×8
直	江津港	中央埠頭	高岡市内		原 塩	65	20	3,250	280.8	33.3	8.4	145.20	132.68	132.5	2.78	2.16	2.54
				R8	木質ベレット	210	20	10,500	284.0	33.3	8.5	145.20	132.68	433.0	2.78	2.16	8.29
					計	275		13,750			17			565.5			10.83

CO2 · No×削減	CO2削減量 (t-c/年)	Nox削減量 (t/年)	
WITHOUT-WITH	R8	558.1	10.69

■WITHOUT時(伏木富山港:水深12m暫定供用)

利用	船型·入港隻数		滞船時間	CO2削減量		Nox削減量	
1		2	3	4	(5)	6	7
対象船型	相手港	入港船舶	海上輸送	CO2海上輸送	CO2	Nox海上輸送	NOX
		隻数	時間	排出量原単位	排出量	排出量原単位	排出量
(DW級)		(隻)	(h)	(トン-C/隻・時)	(トン-C)	(トン/隻・時)	(トン-C)
					2×3×4		2×3×6
30,000DWT	アメリカ	11	542.1	0.99	5,904	0.088	525
					5,904		525

	CO2	NOX	
CO2排出量・Nox排出量	排出量	排出量	
	(t-c/年)	(t/年)	
削減便益	781	39	

参考資料

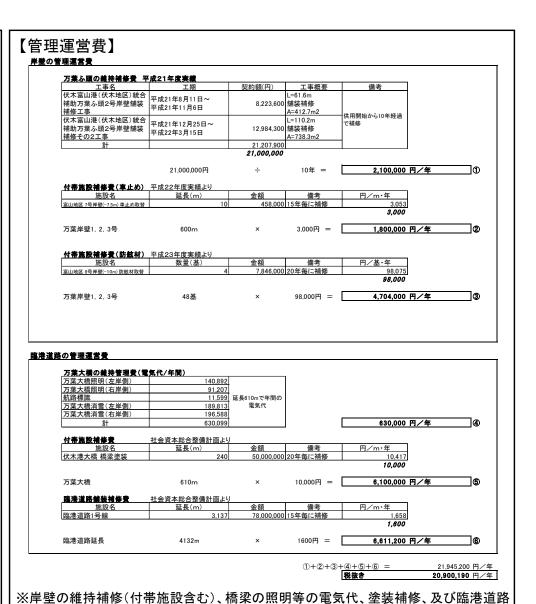
費用内訳

【事業費】

単位:億円(税込み)

施設名称	事業期間	計画数量	全体事業費		既設	残事 業費	進捗率
			前回	今回	既設 投資額	業費	(%)
防波堤(北)	S63~H24	1,650m	279	279	279	0	100%
岸壁(水深10m)	H4~H28	190m	31	31	31	0	100%
岸壁(水深7.5m)	H3~H7	130m	19	19	19	0	100%
泊地(水深10m)	H5∼H7	2.6ha	5	5	5	0	100%
航路(水深10m)	H5∼H7		7	7	7	0	100%
岸壁(水深14m)	H12~H17	280m	46	46	46	0	100%
岸壁(水深14m) (耐震)(改良)	H25~H28	280m	13	13	13	0	100%
泊地(水深14m)	H12~R7	40.9ha	55	55	42	13	76%
航路(水深14m)	R5~R5	0.6ha	1	1	0	1	0%
防波堤(東)	H3∼H6	150m	9	9	9	0	100%
道路(外港1号)	H4~H9	298m	7	7	7	0	100%
道路(外港2号)	H6~H10	304m	2	2	2	0	100%
道路(外港1号) (改良①)	H8∼H25	1,920m	43	43	43	0	100%
道路(外港1号) (改良②)	H26∼R7	1,000m	8	8	4	4	42%
道路(外港1号) (橋梁)	H8~H21	610m	40	40	40	0	100%
ふ頭用地	H1∼R4		49	52	49	3	94%
合計	S63~R7		613	616	594	22	96%

※既投資額、残事業費、進捗率は令和2年度末予定



の舗装補修を計上。